



## 情報セキュリティ普及・啓発 発信メッセージについて

## 普及啓発の目的

情報通信技術の活用を促進するため、全ての国民が情報通信技術を安心して利用できるようにする。

### そのために

情報セキュリティに係る取組を、特殊なものとしてではなく、一般常識、マナー、あるいは社会的習慣として広く国民全体に定着させる。

国民・利用者がITリスクを認識し、自発的に情報セキュリティ対策を実施することができるようにする。

# 平成24年度情報セキュリティ月間の重点テーマ等

## キャッチフレーズ

- 「知る、守る、続ける」をキャッチフレーズとした

知る

安全・安心・便利なインターネット環境を構築するためのポイントを知る

守る

情報セキュリティの脅威から身を守る

続ける

移り変わる情報セキュリティ上の脅威に対して対策を続ける

## 対策のポイント

- 特に取り組んでほしい対策として、情報セキュリティ対策3か条の実施を訴えた

不審なサイトやメールにアクセスしない

個人情報等の重要な情報の扱いは慎重に

パソコン等は常に最新のセキュリティ状態に

## 重点テーマ

- 個人向け(スマートフォンの情報セキュリティ対策)  
「アプリは信頼できるサイトから。ウイルス対策も忘れずに」
- 企業向け(情報漏えい対策)  
「守ろう情報、防ごう漏洩。そのクック安全ですか？」

## 平成24年度情報セキュリティ月間発信メッセージについて

- キャッチフレーズについては、前年度と同様のメッセージとした。セキュリティの確保に関する要点を短く表現したもので妥当であったと認識。また、対策のポイントについても、対象が取るべき行動を集約しており、適切であったと認識。
- 重点テーマについては、前年度の反省を踏まえ、個人向けと企業向けのそれぞれについてメッセージを発信。スマートフォンや、情報漏洩対策など、分かり易く旬なテーマを具体的な対策方法と共に発信しており、適切であったと認識。
- 他方、キャッチフレーズと、対策のポイントで計6つのメッセージとなり、さらに、重点テーマ2つと合わせ、合計8つのメッセージとなる。注力するポイントを絞ることも一案ではないか。

# 今年度の情報セキュリティ発信メッセージ(その①)

## 統一感あるメッセージの発信について

- 政府機関等でメッセージを統一  
政府機関で統一感あるメッセージを発信することで調整。企業等主催の関連イベントにおいても、同一のメッセージを発信することで、さらなる繰り返し効果を期待。
- 年間を通したメッセージの発信について  
普及・啓発活動を、年間を通した活動とするためにも、メッセージはイベント期間に限定せず、年間を通したものとすることが有効ではないか。
- 統一メッセージに協力いただく主体への配慮  
この場合、協力頂く主催者等の自由度も持たせるべき。キャッチフレーズの共有までに留めることを想定。そのため、キャッチフレーズは、個別具体的にならないものとする。

## 今年度の情報セキュリティ発信メッセージ(その②)

- キャッチフレーズについて  
現在の「知る、守る、続ける」は、スマートフォンの一層の普及など、昨今の状況変化を踏まえてもなお有効と考えられ、継続的に同じことを主張することが重要である。今年度も同様のキャッチフレーズにしてはどうか。
- 対策のポイントについて  
発信するメッセージの数を絞る観点から、例えば、対策のポイントは、キャッチフレーズの具体的な行動例という位置づけとし、キャッチフレーズに溶け込ませることはどうか。

知る

安全・安心・便利なインターネット環境を構築するためのポイントを知る

「不審なサイトやメールにアクセスしない」

守る

情報セキュリティの脅威から身を守る

「個人情報等の重要な情報の扱いは慎重に」

続ける

移り変わる情報セキュリティ上の脅威に対して対策を続ける

「パソコン等は常に最新のセキュリティ状態に」

## 今年度の情報セキュリティ発信メッセージ(その③)

### ○ 重点テーマについて

引き続き、対象を個人と企業に分けて設定することはどうか。

### ○ 具体的なテーマとしては、例えば以下はどうか

#### - 個人向け

「スマートフォンのセキュリティ対策」(昨今の状況を踏まえ継続)

又は「  
」

#### - 企業向け

「ソフトウェアの脆弱性を突いた攻撃に注意」

又は「  
」

昨年の「情報漏えい対策」は、カバー範囲が広いため、もう少しポイントを絞ることが有効ではないか。